

シリアの子供たち——我々が決して忘れることのないよう に

【訳者注】この論説の読者コメント欄に、「こうした残虐行為が起こるためには、多くの人々が一致協力して、それが起こるようにしなければならない。人間は不道徳、利己的、傲慢、かつサディスティックな動物である」という短評が、トップに支持されており、私もこれに胸を突かれて、これを取り上げることにした。シリアでもイエメンでも、どこでも同じだが、もし目撃したら耐えられないようなことが、いま至る所で起こっている。しかし「多くの人びとが一致協力して」それを止めるにはいるのでなく、多くの人びとが、それがうまく起こるように一致協力し、その残虐行為が見えないように、誰にも咎められずに済むように、手助けすることによって、権力エリートは成功している。これは発狂するような事態ではないか？ あなたはその一人でないという自信はあるか？ しかも、彼らに協力した人々が、将来、利益を得るとは考えられず、究極的には奴隷の側に組み込まれるだろう。たった一人の難病の子供を救うための寄付金が、たちまち集まるような、心優しい人々の国で、一方では、数えきれない外国の子供が毎日のように虐殺されても、無知・無関心のままとするのは、あまりにもアンバランスというべきではないか？

Peter Koenig (First published March 2016, updated February 10, 2017)

March 2, 2018, Information Clearing House



韓国平昌の冬季オリンピックが終わり、再び、戦争商売、脅迫、爆撃が、地球という舞台を取り戻している。シリアは再び、血のしみ込んだ帝国の手先、NATOや西側の傀儡たちの狙いの的にされている。アメリカは、一連の永久的な、不法な、招かれざる基地を北シリアに築き、約3万のほとんど傭兵からなる軍隊を展開し、アメリカによって訓練され、武器を与えられた、5万のクルド族のいわ

ゆる“人民保護部隊” YPG や、新しく訓練され、資金援助され、武装された ISIS 兵士たちを使喚している。これはすべて、シリア領土の3分の1の占領を目指すもので、究極の政権

転覆を狙う、シリアのバルカン化（分割統治）の始まりである。この目標は、ずっと変わらず継続し、シリアの合法的な、民主的に選ばれた大統領バシヤール・アル・アサドの排除を狙うものである。

更には、ダマスカスの郊外領域、東グータ（East-Ghouta）が、すでに、米軍に指令された IS 軍、あるいは友軍のテロリストに、再び支配されており、この者たちは、1日に平均 70 発のロケット弾をダマスカスに撃ち込んでいる。ロシア大使館の攻撃に加えて、彼らは無数の死傷者を出している。子どもを中心として、さらなる苦しみ、住居、病院、学校の破壊、増加する孤児——彼等はこれに、無難な、国連の「難民」という名を与えている——名前も、顔も、親も、教育もない子どもたち、奴隷としての、性的かつ労働の搾取の対象としての子供たち、未来のない子どもたち。（強調記者）

これは間違いなく、どこまでも続くだろう。ロシアは殺戮を止めようとして干渉するだろう。一方、シリア北部のアメリカの基地はさらに増大し、彼らは手放そうとしないだろう。**PNAC（新しいアメリカの世紀計画）**の原則の一つは、“譲歩するな、何があろうと、お前の目標を達成せよ”である。…この曲げられない教理については、ロシアの方がよく知っているだろう。「何があろうと」というのは、「もしお前が滅びたら、世界が滅びる」という意味に取れる。

そこで、滅びなければならない 7 つの国家がある。これについては、Wesley Clark の放送による 2007 年の Democracy Now が、こう証言している：

https://www.youtube.com/watch?v=9RC1Mepk_Sw

シリアはその一つである。レバノンも同時に同じ脅威を受ける。幸いなことに、ロシアは、レバノンの首相 Saad Hariri と軍事防衛同盟を結んだばかりである。イスラエルとレバノンの防衛軍の対立が高まり、子供たちへの危険が高まる可能性がある。そして、“売春新聞”がすでに、ウソのプロパガンダで、洗脳を始めている明らかな可能性がある。それは何か？ニセ旗作戦である。もう一つの、東グータ・サリンガス攻撃が、米・NATO の指令するテロリストによって、今度は特に子供を狙って行われ、アサド政府に濡れ衣が着せられるだろう。ホワイト・ヘルメット団がそこに現れ、たぶん George Clooney の監督によって、その映画が製作されるだろう。そうなれば、それは世界の人々に大きな影響を与える。

思い出していただきたい。2013 年 8 月、東グータで、塩素とサリンガスによる攻撃があり、1,700 人に及ぶ人々が殺され、その 3 分の 1 が子供だった。そして最初の国連による調査が、元スイスの司法長官 Carla Del Ponte の指揮の下に行われたが、彼女は、おそらく、このガス攻撃は、“反政府側”すなわちテロリストによる犯行だと結論した。彼女はスイス TV

でこう言った——「私は、反政府側による神経ガスの使用の証拠が、最初に示されたとき、かなり驚きました。」彼らの側がやったのだ、アサド氏ではないと、国連の専門家が言うのを聞いて「驚いた」のは、明らかにワシントンも、そのヨーロッパの傀儡、フランス、ドイツ、イギリスも同じだった。デル・ポンテ女史が、明確に意味していたのは、西側がテロリストを支持し、ニセ旗を実行するよう彼らを使喚することによって、戦争犯罪に共謀していたということだった。

デル・ポンテ夫人が、後に、前言を取り消さざるを得なくなったのは、おそらく脅迫されたからで、これは暴君的な帝国の究極の武器であり、与えられた教えに背く者たちを、彼らは脅迫する。それ以来、売春主流メディアの報道のすべては、自国民を殺すシリア政府に対する非難だった。それはアサド氏のやることではない。しかし確かにそれは西側のやり方である。9・11 とそれ以来の、無数の彼らのニセ旗、学校銃撃を見ればわかる。

もちろん、2013 年以来、何も変わっていない。西側は毎日のように、数えきれない戦争犯罪をやっており、9・11 以来、“ニセ旗の母”として、何百万の人々を殺してきた。少なくとも犠牲者の 3 分の 1 が子供であり、生き残った子供たちは孤児として、難民として、奴隷として、悲惨な生き方を強いられ、人間としての尊厳は無視されている。

罪のない子どもたちが、権力と強欲に駆り立てられたエリートたちの、利益の犠牲になる。彼らの最終的な目的は、この最も戦略的な位置にある、石油とミネラルに富む中東の国を支配することである。その国のアサド大統領は、2009 年に、シリアを、地中海、カスピ海、黒海、紅海、それにペルシャ湾と結びつける「5 海ビジョン」を宣言した。それはシリアを、中東の経済的な発電所にする構想だった。

その 2 年後、2011 年に、ワシントンは、CIA と NATO に訓練されたテロリストを使って、いわゆるシリア内戦を起こした。そしてそれが、今日までの 7 年間に、少なくとも 50 万の人命を犠牲にし、シリアの 1,800 万人口のほとんど半数が、住居を追われ、そのうち 400 万以上の人々が海外へ逃れた。もしこの不気味な PNAC (新しいアメリカの世紀計画) が成功するとしたら、シリアは今後数十年間、野蛮な搾取のために混乱状態に置かれるだろう。そして子供の世代は終わり、残ったシリアの人々——中東で最もすぐれた教育を受けている民族のひとつ——は、すべてを失った奴隷状態に陥るだろう。

(ピーター・コーニグは、経済学者、地政学アナリスト。彼はまた、かつて世界銀行のスタッフであり、環境や水資源の分野で、世界中で広範囲に活動した。現在、アメリカ、ヨーロッパ、南米の大学で講義をしている。彼が常時、寄稿しているのは、Global Research、ICH、RT、Sputnik、PressTV、等々。数点の著書がある。)

